

岩手県「サッカーパブリックビューイング in 陸前高田」

2018年6月1日



パブリックビューイング

背景/課題

岩手県陸前高田市は東日本大震災で、誰もが「社会的弱者」になりうることを学んだ。この経験を糧に「ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり」をスローガンに、年齢・性別・国籍等の多様性を認め合う社会モデルの実現を目指している。一方、内戦を経て今復興への道を歩むコロンビアでは、JICAも地雷撤去や障害者の社会復帰に向けた支援等の様々な協力を行っている。

目的

- 陸前高田市とコロンビアがFIFAワールドカップロシア大会対戦国という関係で繋がる。
- 対コロンビア協力への理解の創出、コロンビアと陸前高田市のネットワーク構築、今後の国内関係機関による対コロンビア協力の可能性の拡大、陸前高田市の掲げるまちづくりスローガン「ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり」の社会への発信

活動内容

- W杯コロンビア戦のパブリックビューイングイベントを開催。イベントでは、在日コロンビア共和国大使館キントロ書記官や陸前高田市戸羽太市長のスピーチ、吉本興業のお笑いコンビレギュラーの松本さんのトークイベント、ブラインドサッカーやアンプティサッカーの体験会を実施した。

成果

- イベント参加者は、コロンビアと陸前高田の「復興」について考える機会を得た。
- ブラインドサッカーやアンプティサッカーの体験会では、地元の子どもたちにインクルーシブ教育の機会が提供され、陸前高田市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり」に貢献した。